

平成15年度  
国民参加協力推進事業  
評価調査及び事前調査報告書  
—カンボジア—

平成15年9月

JICA LIBRARY



1175169101

国際協力事業団

東北支部

東北支

JR

03-02

平成15年度  
国民参加協力推進事業  
評価調査及び事前調査報告書  
－カンボジア－

平成15年9月

国際協力事業団  
東北支部



1175169[0]

## 序 文

途上国の開発におけるNGOの国際協力活動は、途上国の住民に直接届くきめ細かい支援という点で、従来のODA事業と比べても大きな優位性を保っているといえます。国際協力事業団（JICA）は、住民により裨益することのできる国際協力事業を展開するために、NGOの方々を重要なパートナーと認識し、連携を図ってきました。

JICAは、NGOの方々との本格的な連携事業を展開するための手段として、1998年度に「開発パートナー事業」を、また、2000年度には「小規模開発パートナー事業」を導入しました。また、2002年度には、これまでの連携事業を統合・整理し、国際協力への市民参加を推進するという目的も加味した「草の根技術協力事業」を開始しています。

JICA 東北支部では、2002年7月より、特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形（IVY）と共同で、カンボジア国の農村住民の生活向上を目的とした小規模パートナー事業「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及プロジェクト」を実施してきました。さらに同団体は、上記事業を拡大発展させるため、稲作、野菜栽培、家畜飼育などを含む多角的かつ持続的な小規模農業システムの確立を目指した草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」の実施を提案し、既に採択が内定されているところです。

そこで、JICAは、現在実施されている事業の進捗と成果を確認し、新規提案案件の実施にあたっての事業計画策定に資するために、今般の調査団を派遣することとしました。

本報告書は、同調査団の調査結果をとりまとめたものであり、これが今後の事業の円滑な実施につながることを願うものです。

ここに、本調査の実施に対してご協力とご支援を賜りました関係の皆様方に対し、こころから感謝の意を表します。

平成15年9月

国際協力事業団東北支部  
支部長 雲見 昌弘

プロジェクト対象地域位置図



# Map of IVY Project Area

## LEGEND

- National Border ———
- Province Border - - - - -
- District Border - · - · -
- Commune Border - - - - -
- National Road = = = = =



Svay Rieng Province: 7 Districts

Phnom Penh

Prey Veng

Romeas Haek

Vietnam

Rom Duol

Svay Rieng

Svay Chrum

Svay Teap

Ho Chi Minh

Chantrea

Kompong Ro

Don Sa

Svay Yea

Angk Tasou

Svay Angk

Thlok

Kraol Kou

Kouk Pring

Pouthi Reach

Svay Chrum

Chek

Prey Veng

Chhoeu Teal

Ta Sous

Svay Rieng Town

Svay Chrum District: 17 Communes

Svay Thom

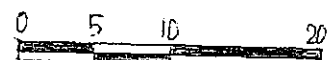
Chambok

Kompong Chamlang

Kruos

Basak

Vietnam



Map of Svay Rieng Province

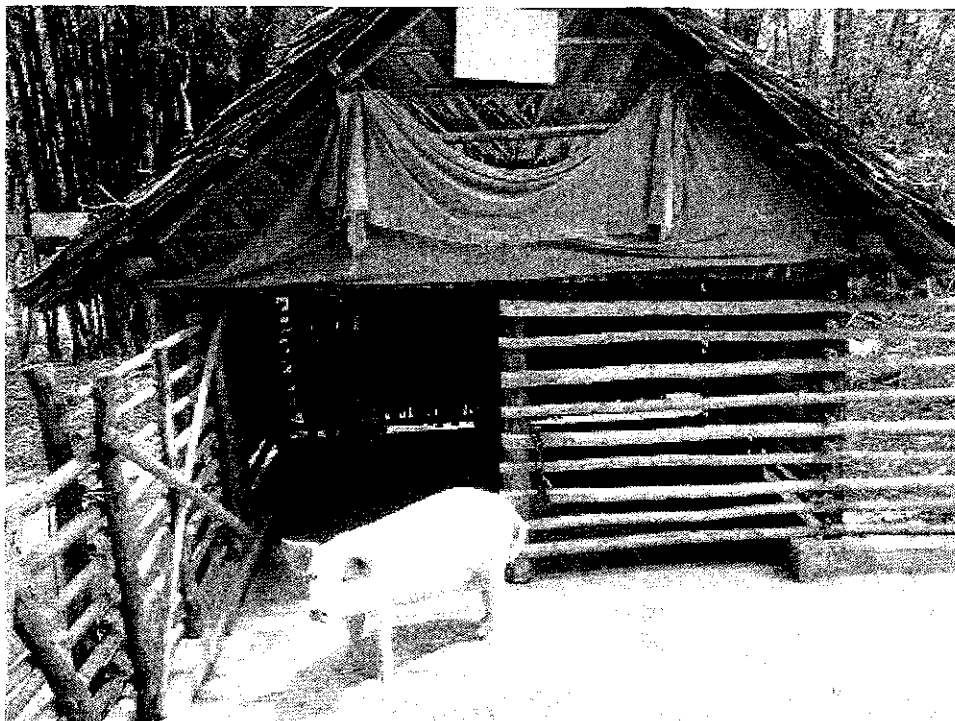
## 現地調査写真

### ①草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト関連



#### ◆家畜飼育ボランティアのワークショップ（チューティール村）

一般農家を回り、各自で家畜飼育の状況を確認し、何が改善できるかを討議する。



#### ◆モデル豚舎1 （建設費 150 ドル）

それぞれ成長記録を付け、豚舎の有効性を検討する。



◆モデル豚舎2 (建設費 120 ドル)

砂+おがくず+塩を敷いたもの。糞尿は畜舎内に残し、堆肥として利用可能。



◆モデル鶏舎 (建設費 130 ドル)

鶏舎内で飼育することによりワクチン接種が不要になる。ただし、ローカル種では閉鎖された環境での飼育はストレスの問題が生じた。



## ②農村女性組合設立支援事業関連



### ◆鶏へのワクチン接種

未接種の場合は、ほとんどが病気に感染する。ワクチン代は、ヒナ4.5円、成鳥6円+獣医の手間賃。ニワトリの販売価格は、150円/1kg程度。

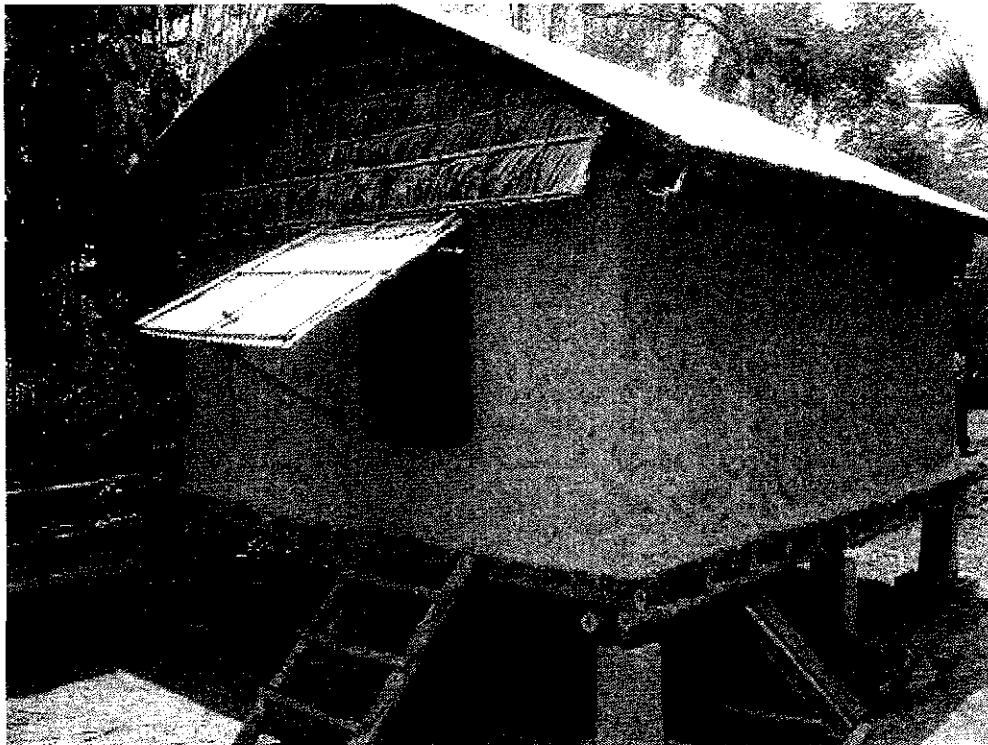


### ◆女性リーダー

女性組合のリーダー、家庭菜園ボランティア、家畜飼育ボランティアを兼任

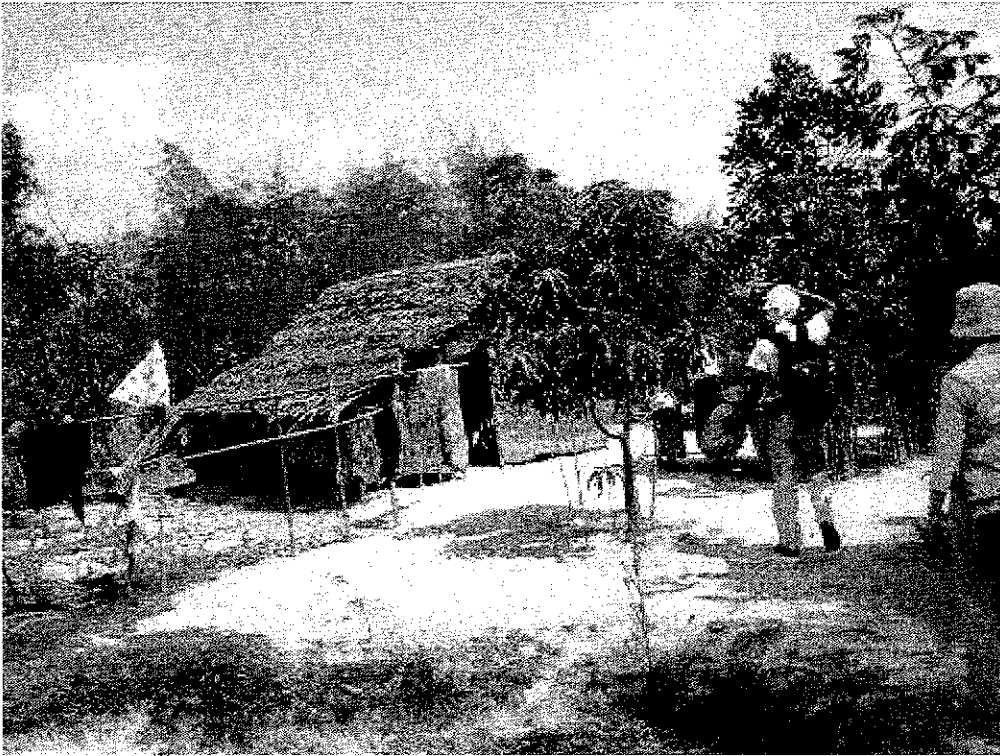


◆家庭菜園



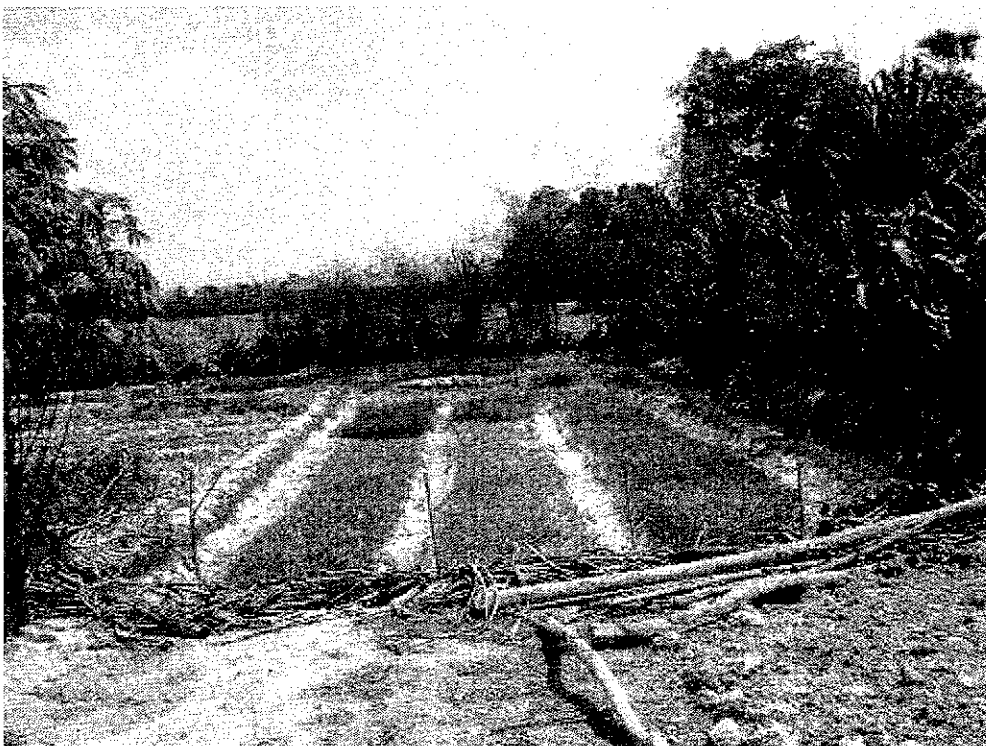
◆米銀行の米倉庫

2001年の干ばつの際に、女性組合による独自の事業として設立（IVYの支援はなし）。  
30家族が約30kgを借りる。年利は20%（一般的には100%）



◆最貧困家庭プロジェクトの支援を受ける女性宅

女性組合の独自の事業として実施。30000 リエル（約 7.5 ドル）を借り受け、種子を購入して野菜栽培を行う。組合リーダーが定期的に訪問。



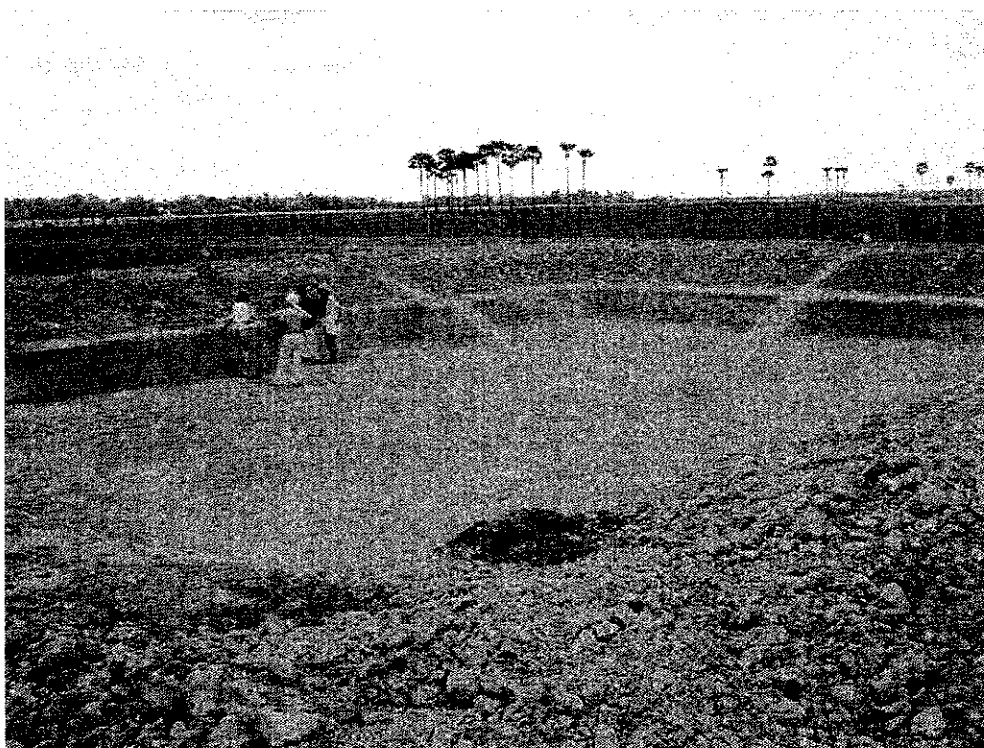
◆同菜園

### ③環境保全型農業推進事業関連



#### ◆試験農場（0.6ha）

2002年土地取得・造成し、稲栽培試験を実施。井戸は日本企業の支援にて設置。



#### ◆同農場内のため池

1 m掘削済み、さらに1 m掘削予定。

周囲に植林を行い、土手で野菜栽培を行うなど、循環型農業のモデルを設置することを想定。

小規模開発パートナー事業「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト」評価調査  
草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」事前調査

## 目 次

序文

プロジェクトサイト位置図

写真

第1章	調査の概要	1
1-1	調査団派遣の経緯と目的	1
1-2	調査団の構成と調査期間	2
1-3	評価の方法	3
第2章	プロジェクトの背景と概要	2
2-1	実施団体の概要	4
2-2	事業の概要	4
2-3	プロジェクト対象地域の現況	7
2-4	農業・農村開発政策と関係機関の現状	11
2-5	スバイリエン州における他ドナー及びNGOの活動状況	12
2-6	安全対策	14
2-7	提案団体の活動と当該事業の位置付け	14
第3章	「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト」の 評価	18
3-1	事業の目的	18
3-2	投入及び活動実績	18
3-3	プロジェクトの成果	22
3-4	プロジェクト目標の達成度	23
3-5	評価	23

第4章 「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」の事前評価	24
4-1 プロジェクトの要約	24
4-2 評価5項目による評価	25
4-3 総合評価	28
第5章 提言	29
付属資料	31
(1) 調査日程	32
(2) 主要面談者	33
(3) 「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト」 PDM	34
(4) 同口上書及びR/D	35
(5) Project Area Map	40
(6) 「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」PDM	41
(7) 同修正案	43

## 第1章 調査の概要

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

#### (1) 派遣の経緯

カンボディア国はメコン水系に開けた肥沃な土壌と水資源に恵まれた農業国であり、人口のおよそ84%が農林水産業に従事している。GDPの中で農林水産業の割合は約40%を占め、カンボディアの経済基盤の安定化と経済成長を図る上で最重要な産業である。かつて1960年代には食糧自給を達成し輸出を行うほどであったが、1970年代以降約20年にわたる内戦により国土は荒廃し、生産年齢人口も減少したことから、生産性は著しく減少した。その影響は現在も様々な側面で残っているが、米生産は徐々に立ち直りを見せ、1995年以降は食糧援助を継続的に受けながら、一応の自給を数値上達成するに至っている。

農業の中でも特に稲作は基幹であり、全作付け面積のおよそ90%を占めているが、灌漑施設の不足から天水依存の雨季一期作が主体となっている。これにより作柄は天候の影響を受けやすく、単位面積当たりの収量は全国平均で約1.9t/haと周辺国に比較しても低い水準にある。

一方、同国東部、ベトナムに国境を接するスバイリエン州は農業以外に際立った産業もなく、人口の約9割が農村地域において農業に従事している。灌漑なども整備されていないため、天水だけに頼るコメの一期作しか行われていない。一方、乾季は乾燥が厳しくなることから、「裏作」を行っている家庭も殆どない。そのためコメの収穫量が十分でない家庭では乾季にはプノンペンなどへの出稼ぎを余儀なくされる。さらにこうした家庭のうち十分な労働力のない家庭では、出稼ぎによる収入も不十分で、慢性的な栄養失調状態にあり、その結果病気にかかりやすくなり医療費が嵩んで借金したり、貧血などで田畑での農作業ができなくなったりという貧困の悪循環に陥っている。

このような背景から、地域に適合した循環型の農業システムを確立し普及することにより、地域住民の生計向上と生活環境の保全を図ることが急務となっている。

2002年7月より、特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形(IVY)とJICAは、共同で小規模パートナー事業「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及プロジェクト」を実施している。この事業は、同州の農村に

における貧困削減を目的として、村の女性グループから選ばれた家畜飼育技術普及ボランティアの育成と政府により促成で養成された「草の根獣医」への技術的支援を通じ、小規模農家における家畜飼育振興を図るものであり、2003年6月までの実施を予定している。

さらに、同団体は、上記事業を拡大発展させるため、稲作、野菜栽培、家畜飼育などを含む多角的かつ持続的な小規模農業システムの確立を目指した草の根技術協力事業（パートナー型）「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクトの実施を提案した。

## （2）派遣の目的

- ①実施中の小規模パートナー事業の活動の進捗状況を確認し、事業の効率性・妥当性の観点からの評価を実施し、今後の事業効率を高める。本案件は、昨年8月に事業を開始し、調査団派遣段階で1年間の事業期間の約2/3を経過した段階であるため、今次調査においては、事業の進捗の確認と事業実施妥当性及び効率性の観点からの中間評価を行い、必要に応じ今後の事業実施の方向修正について検討を行うとともに、次期パートナー型草の根技術協力案件の事業実施計画策定に当たっての教訓を得る。
- ②新規提案案件について、関係省庁及び州政府に対し同提案案件の概要説明を行い、先方の関心度を確認するとともに、農業・農村開発政策と方針、対象地区の現況、住民のニーズ等を把握したうえで事前評価を実施し、案件の実施妥当性及び事業アプローチの妥当性を検討するとともに、今後の具体的な事業実施計画策定に資する。

## 1－2 調査団の構成と調査期間

### （1）調査団の構成

総括／農業開発	山中 光二	国際協力事業団	国際協力専門員
事業評価	河澄 恭輔	国際協力事業団	東北支部 支部長代理
協力計画	柴田 けい子	国際協力事業団	東北支部 国際協力推進員

### （2）調査期間

平成15年3月30日～4月8日



### 1-3 評価の方法

基本的に「JICA 事業評価ガイドライン」に基づき、評価 5 項目の観点による評価を行った。

「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト」については、事業提案時に作成された PDM をもとに成果の達成状況を確認し、プロジェクトの妥当性と効率性を中心に評価を行うこととした。ただし、時間の制約と具体的なデータも未だ十分に収集されていないことから、指標をより具体化した評価用の PDM e の作成には至らず、定性的評価にとどまらざるを得なかった。

「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」については、現地調査及び協議結果を踏まえ、評価 5 項目の視点により、事業内容の妥当性の検討を行い、事業提案時に添付された PDM 案の修正を行った。

## 第2章 プロジェクトの概要と背景

### 2-1 実施団体の概要

特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形（IVY）は、「アジアの問題と地域の問題を考え行動する」ことを目的として1991年12月に設立された。

国内では、国際結婚により山形県内に定住する外国人女性への支援（日本語教室、外国人生活相談、通訳派遣等）、他文化理解講座（総合学習へのファシリテーター派遣、ボランティア入門講座）等の活動を行っている。

93年からは海外での協力活動も広く展開し、カンボジアにおける住民の自立支援事業や、東チモールでの医療支援、識字教育等の協力事業等に取り組んできた。海外協力活動においては、自立に向けて住民自らが主体的に問題に取り組めるような能力向上に重点を置くとともに、山形県の人的リソースの活用を強く意識した活動を行っている。

### 2-2 事業の概要

実施中の小規模開発パートナー事業「スバイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト」及び新たに事業提案のなされた草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクト」の概要を、それぞれ表1、2に示す。

表 1. スパイリエン州草の根獣医及び家畜普及員養成プロジェクト

(事業提案書より抜粋)

事業の背景と必要性	<p>スパイリエン州においては、伝統的に養豚や養鶏が盛んに行われてきた。これは、現金収入の手段として、また、貯蓄や保険の代替として、さらには循環型の伝統的農業システムの一部として重要な役割を果たしており、主として女性によって家畜飼育の役割を担われてきた。しかしながら、家畜飼育にかかる基本的な知識が十分に普及していないために、家畜の成長の遅れや死亡等のリスクにさらされているものの、女性たちは、その知識を得て、状況を改善するための機会に恵まれてこなかった。</p>
事業の目的	<p>村の家畜飼育のための環境が整備される。</p>
対象地域	<p>スパイリエン州スパイチュルン郡チューティール地区内 2 村</p>
受益者層 (ターゲットグループ)	<p>家畜飼育技術普及ボランティア 10 名及び村の獣医 2 名 対象村の住民約 1400 人</p>
期待される成果及び指標	<p>(成果) 家畜飼育技術普及ボランティア及び村の獣医の技術、知識及び意識が向上する。</p> <p>(指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜飼育技術普及ボランティア 10 名が育成される</li> <li>・家畜飼育技術普及ボランティアと村の獣医の間に協力関係が生まれる。</li> <li>・2名の獣医による家畜へのワクチン投与や治療が有効に行われる。</li> <li>・モデル豚舎・鶏舎の管理が適切に行われる。</li> </ul>
実施期間	<p>2002 年 7 月～2003 年 7 月</p>

表2. スバイリエン州スバイチュルン郡女性参加手法による環境保全農業プロジェクトの概要（事業提案書より抜粋）

事業の背景と必要性	スバイリエン州の住民は土地面積、土壌、水等の問題から主幹作物の米だけで生計を立てる事が困難であり、多角的活動による循環型農業の導入が生活安定に有益だと考えられる。地球環境変化が著しい昨今、こうした農業技術の転換は急務である。なお、農業プロジェクトを遂行する上で女性の参加は不可欠であるが、カンボジアの慣習上、女性が男性と対等な立場でプロジェクトに参加する事は難しい。そのため農業プロジェクト以前の女性に対するエンパワメントが必要となる。
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困の悪循環断絶</li> <li>2. 農業による住民の生活安定</li> <li>3. 女性の地位向上</li> </ol>
対象地域	スバイリエン州スバイチュルン郡内 16 村（チューティール地区 12 村、その他 2 地区 各 2 村）
受益者層（ターゲットグループ）	<p>当プロジェクトには 4 種類の受益者層が存在する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象村内の女性（約 1,000 名）、2. 農業普及員となる住民（約 50 名）、3. 対象村内の住民（約 1,000 世帯）、4. 対象村外の住民</li> </ol>
期待される成果及び指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相互扶助グループの設立（指標：全世帯数の 5 割以上がグループ活動に参加する）</li> <li>2. 貯蓄の習慣付け（指標：貯蓄活動が 4 ヶ月以上継続される）</li> <li>3. 栄養知識の向上，家庭菜園の普及（指標：年間を通して家庭菜園に取り組む家庭が一村 5 割を超える）</li> <li>4. 基礎的な家畜飼育技術の習得（指標：基礎的な家畜飼育法を身につけ，ワクチン接種率が上がり，家畜の死亡率が減る）</li> <li>5. 最貧困層の女性が支援プログラムにより収入を得ることができる（指標：最貧困層の女性の借金、借米が減少する）</li> <li>6. 農業ボランティア及び農業普及員が育成される（指標：農業ボランティアが各村 10 名前後育成され、モデル農園が実施される，農業普及員が各村 5 名前後育成され，一般住民に対するトレーニングが実施される）</li> <li>7. 試験農園及びモデル農園に於いて環境保全型複合農業に関する研究が実施される（指標：試験農園，モデル農園の実施状況）</li> <li>8. 地域住民が農業と環境に関する知識を深める（指標：複合農業に関する PLA、ワークショップへの参加率が全世帯の 50%を超える）</li> </ol>
実施期間	2003 年 7 月～2006 年 6 月

## 2-3 プロジェクト対象地域の現況

### (1) 概況

スバイリエン州は、同国南東部のベトナム国境沿いに位置し、7郡80地区690村に、カンボジア総人口の4.3%にあたる約513千人が居住しており、うち94%の住民は農漁業に従事しているとされる。ポルポト政権崩壊後に帰還民がこの地域に流れ込んだことから、人口密度は172人/㎓<sup>2</sup>にのぼり、全国平均の68人/㎓<sup>2</sup>と比較して高い数値を示している。そのため、世帯当たり平均耕地面積は約0.7haに留まり、貧困の一要因となっているといえる。気候条件は、年平均気温が26.7度、年降水量は1,568mmに達するが、干ばつ、洪水など、頻発する気象災害にさらされ、2000年には記録的な大洪水によって甚大な被害がもたらされた。

### (2) 農畜産業の現況

全国と比較したスバイリエン州の主要農産物生産の推移を表3に示す。コメ生産高が最も多く、そのほかサトウキビ、キャッサバ等が続くが、全国平均に比較しても圧倒的にコメ生産の割合が高く、より稲作に依存した形態となっている。(ただし、2000年に洪水、2001年に干ばつ被害があったにもかかわらず、下表では生産量が増加している点で、データの信頼性には疑念が残る)

野菜については、ベトナム国境に接するという地理的条件から、ベトナムの効率的な野菜栽培との厳しい競争にさらされているという要因もあり、生産量はきわめて少なく、地域の青果市場で販売される生鮮野菜は、ほとんどがベトナム産で占められている。

同州における水田面積は、2003年で182千haに達し、全国でも第6位の面積を誇っているが、厳しい自然条件と農業インフラの未整備などから、農業生産性は同国の中でも最低レベルに留まっている。すなわち、水田地帯の多くは粘土質・貧栄養の土質を呈し、作物の生育に不適であるとともに、乾燥による固化で乾期の耕作を著しく困難なものとしている。灌漑施設もほとんど整備されていないため、天水に依存した雨期のみの一期作にとどまっております(2003年の水田面積：雨期170千ha、乾期12千ha)、また、雨期においても播種後の水不足によって苗が枯死するという状況も発生している。したがって、気象の変動に大きく生産高が左右され、2000年には、洪水によって、雨期耕作面積168千haのうち、被害面積が143千haに達し、収穫面積

はわずか 25 千 ha にとどまったとの報告もなされている。

表 3. 農産物生産状況

単位：トン

品目		1996	1997	1998	1999	2000	2001
コメ	全国	3,458,000	3,414,918	3,509,871	4,040,900	4,026,092	4,099,016
	スパイリエン州	234,661	194,120	192,349	229,600	254,567	241,147
メイズ	全国	91,255	57,460	68,651	150,654	278,713	343,241
	スパイリエン州	95	92	95	50	96	98
キャッサバ	全国	69,656	77,266	66,534	228,512	147,763	142,262
	スパイリエン州	3,032	2,974	3,195	2,967	5,081	3,496
サツマイモ	全国	38,032	28,922	30,476	32,516	28,178	26,252
	スパイリエン州	1,720	2,056	2,540	2,832	3,000	1,314
野菜	全国	249,710	250,000	217,258	181,851	195,894	179,741
	スパイリエン州	1,451	397	380	292	439	368
緑豆	全国	13,758	15,312	9,160	15,913	15,100	16,558
	スパイリエン州	6	7	7	12	52	13
サトウキビ	全国	171,305	187,532	133,053	159,859	164,176	164,469
	スパイリエン州	3,167	3,412	4,016	3,798	7,506	5,443

全国と比較したスパイリエン州の家畜飼育状況を表 4 に示す。貴重な現金収入源、貯蓄の手段、自家消費用として、家畜の飼育が好んで行われており、役畜である水牛を除いて、牛、豚、家禽の飼育頭数は一貫して増加している。特に、食肉として伝統的に好まれ、比較的収益性も高いとされる豚の頭数の伸びが著しい。

ほとんどは農家単位での小規模な家畜飼育にとどまっており、適切な飼養技術、ワクチン接種等の衛生管理技術が普及していないことから、伝染病により家畜を失う可能性も高く、農家にとってはかなりのリスクを負っての事業であるといえる。

表 4. 家畜飼育状況

単位：頭

品目		1996	1997	1998	1999	2000	2001
牛	全国	2,762,000	2,872,000	2,680,000	2,826,000	2,993,000	2,869,000
	茨城県	72,335	78,911	81,403	82,398	84,948	92,069
水牛	全国	744,000	766,000	694,000	654,000	694,000	626,000
	茨城県	107,506	96,651	101,186	99,220	96,862	100,658
豚	全国	2,151,000	2,237,000	2,339,000	2,189,000	1,934,000	2,115,000
	茨城県	96,965	86,990	187,769	202,922	203,238	214,939
家禽	全国	11,412,000	11,982,000	13,167,000	13,417,000	15,249,000	15,248,000
	茨城県	463,367	412,586	441,676	524,000	324,302	504,616

なお、同州農林水産局による開発の優先順位としては、農業及び畜産業が最優先分野として掲げられており、これに農産加工、水産業、農業ツーリズムが続いている。

### (3) 農村の現況

同州の農村部においては、ほとんどの住民が農業に従事しているにもかかわらず、世帯当たり平均農地所有面積が小さいこと、土地生産性がきわめて低いこと、適切な農業技術の不足から、多くの農民が年間の自家消費用の米も満たしていない状況である。端境期に不足する米は、土地を抵当に高利にて借金・借米せざるを得ず、返済ができず土地を失うケースも多い。IVYの調査によれば、対象村の一つ（ブーンコ村）110世帯のうち、65世帯（59%）で、年間3ヶ月以上食料が不足しており、うち18世帯（16%）では9ヶ月以上もの間食料が不足するとの結果が報告されている。また、栽培技術の知識不足、種子購入資金の不足、栄養知識の不足等から、自家消費用の野菜・果樹栽培すらも十分に行われていない。

平均的な農家の現金収入は、年100ドル程度と見積もられている。米の販売価格は、約500リエル/kg（約0.13ドル、1ドル=3,900リエル）であり、1haの農地から精米で800kgの収穫（約200ドル相当）が得られるが、自家消費分を引くとほとんど残らないのが現実である。そこで現金収入の手段としてほとんどの農家で養豚・養鶏が行われている。養豚の場合では、子豚を約6,500リエル（約17ドル）で購入し、10ヶ月の肥育ののち、70～80ドルで販売できるため、比較的収益性は高いと考えられているが、伝染病などにより死亡するケースも多く、高いリスクを負わざるを得ない。養鶏についても、成鳥は1

羽約 2 トルで販売できるが、ワクチン未接種の場合はほとんどが病気に感染する。なお、ワクチン接種費用は、成鳥で 200 リエル、ヒナで 150 リエルに獣医の手間賃を加えた金額となる。

一部の農家では溜池を利用した養魚も行われている。ある農家のケースでは、稚魚 240 匹 (300 リエル/1 匹) を購入し、9 ヶ月飼育したのちに 80kg の収穫を得て 3500 リエル/kg で販売できるが、餌の費用 (最終的には一日あたり米 1kg500 リエル+米ヌカ 3kg900 リエル) を勘案すると、決して高い収益が得られるわけではない。

このような状況から、野菜栽培技術、家畜飼育・衛生管理技術等についてのニーズは高いものの、村の中でも十分な知識と技術を有している住民は少なく、また、農業普及員の活動も十分に行われていない。政府により村に配置された獣医「Village Animal Health Worker (VAHW)」の技術レベルは低く適切な処置が期待できないなど、十分なサービスは提供されていない。

また、ポルポト政権下で、農村における伝統的なコミュニティがほぼ崩壊した結果、住民の相互の助け合いや情報交換の習慣も失われ、隣人との交流もほとんど行われられないような状況もある。したがって、伝統的コミュニティの中ではある程度の庇護を受けていた最貧困層 (未亡人や障害者家庭、土地なし農民等) は、何の支援も得られないまま置かれている。

一方、都市部への出稼ぎによっては月 40 トル程度の収入も期待できることから、同州からはプノンペン市への出稼ぎやホームレスが後を絶たず、同国の中でも、この地方からの男性の流出が最も高い数値を示している。

#### (4) 対象村の現況

これまでの IVY の活動対象地区であるチューティール地区は、スバイリエン州の西端、プレイベン州との州境にあり、国道 1 号線の南側に位置する。同地区には 12 の村があり、地区全体の世帯数は合計約 1800 世帯、人口 9000 人である (一村あたり平均 150 世帯、750 人)。周辺の地区に比べて比較的高い土地にあり (標高: スバイリエン市 3m、チューティール地区 6m)、2000 年の大洪水の際にもあまり影響を受けなかったように、洪水被害の問題は少ない一方で、頻繁に干ばつの被害に襲われている。これまで地区内の 4 村で活動を行ってきており、新規提案事業においては全 12 村が対象となる。

さらに新規事業においては、対象地区としてさらに 2 地区 (ドンソー地区及びスバイチュルン地区を候補) から各 2 村、計 4 村を選定する予定である。ドンソー地区は、スバイチュルン郡の最北端に位置し、11 村に約 8000 人が